



進行中の中央通り再編事業における市役所前の完成予想図 © 四日市市・日建設計

# 四日市市 新市誕生20周年

平成17年2月7日に四日市市と楠町が合併してから、今年で20周年を迎えます。これを記念し、本市の今日までの歩みを振り返りながら、まちの「今」、そして未来への期待を紡ぐ特集をお届けします。

## 四日市 HISTORY 市誕生から併合・合併の歴史

四日市は明治22年に町制を施行したのが始まりで、浜田村、浜一色村、赤堀村の一部を編入しました。その後、明治30年に市制を施行し、昭和5年から昭和32年にかけて、周辺の町村と併合、さらに、平成17年2月7日に楠町と合併し、現在の市域となりました。これらの合併の過程で、各地域のさまざまな文化や伝統が溶け込み、現在の四日市市を形作る豊かなまちの基盤となっています。



1869年(明治 2年)	四日市・浜田ほか4カ村、浜一色ほか5カ村に戸長を置く
1882年(明治 15年)	四日市が1区域となり(戸長1人)、浜田村・浜一色村独立
1888年(明治 21年)	四日市 26カ村戸長役場を新築
1889年(明治 22年)	町制施行: <b>四日市</b> (比丘尼町ほか25カ町)、浜田村、浜一色村、赤堀村の一部を編入(当時人口 15,483人)
1897年(明治 30年)	市制施行: 全国で 45 番目の市発足(当時人口 25,326人)
1930年(昭和 5年)	<b>海蔵・塩浜</b> の両村と合併
1941年(昭和 16年)	<b>富田・富洲原</b> の両町、 <b>羽津・常磐・日永</b> の3カ村と合併
1943年(昭和 18年)	<b>四郷・内部</b> の両村と合併
1954年(昭和 29年)	<b>小山田・川島・神前・桜・三重・県・八郷・下野・大矢知・河原田</b> の 10カ村と合併
1957年(昭和 32年)	<b>水沢・保々</b> 両村および <b>三鈴村の一部</b> と合併
2005年(平成 17年)	<b>楠町</b> と合併 新四日市市誕生

## 四日市市と楠町の合併の経緯

四日市市と楠町は、市・町の行政関係者、議会、住民の代表や学識経験者などで構成する合併協議会を設置し、それぞれの特性を生かし、お互いの立場を尊重しながら、調和のとれた新しいまちづくりを目指しました。その結果、平成17年2月7日に、両市町が合併し、30万人都市として歩み始めました。



合併に関する調印を交わし握手をする井上四日市市長(当時・左)と早川楠町長(当時・右)

平成 15年 7月 4日	四日市市・楠町任意合併協議会設立
平成 15年 10月 1日	四日市市・楠町合併協議会(法定協議会)発足
平成 15年 10月～平成 16年 3月	合併協定項目・新市建設計画の協議・策定
平成 16年 4～5月	住民説明会開催 四日市市と楠町で各3回、計6回開催
平成 16年 7月 16日	合併協定調印式挙行政
平成 16年 8月 11日	四日市市・楠町両議会で合併関連議案が議決
平成 16年 10月 21日	三重県知事による廃置分合(合併)の決定
平成 16年 11月 18日	総務大臣が四日市市と楠町の廃置分合(合併)について告示
平成 17年 1月 30日	楠町で閉町式挙行政
平成 17年 2月 7日	新「四日市市」スタート 楠総合支所開所
平成 17年 2月 13日	合併記念式典開催(文化会館)

## 合併の成果

### 新しい都市基盤の整備を推進

合併特例債(地方債)を活用し、さまざまなまちづくり事業を実施しました。これらの事業により、住みやすい環境を整備し、地域の発展とともに一体的なまちづくりを実施することができました。

#### 【事業実施例】

- 楠体育館の改修
- 中消防署中央分署整備
- 四日市公舎と環境未来館の整備



楠体育館



中消防署中央分署

### 保健所政令市へ

合併により、当時の中核市の指定要件である人口30万人を超え、平成20年に本市は、保健所の設置運営を行う保健所政令市となりました。コロナ禍では四日市市保健所を中心に、市民の命と暮らしを守るため、さまざまな感染症対策に取り組みました。

#### 【取り組み例】

- 新型コロナウイルス感染症陽性者に、医療機関から直接パルスオキシメーターを貸し出し
- 陽性者への感染状況や症状などの速やかな聞き取り
- 市から飲料などを陽性者に配布

## ここが推せます！四日市

各地域の特色は、本市を構成する大切な要素となって市内外の人々に本市の魅力を発信し続けています。「四日市を語るならこれ！」を集めてみました。

### 自然・風景

#### 吉崎海岸



希少な動植物を保全し、自然共生サイトに認定された美しい海岸。

#### 宮妻峡



夏は自然の中での水遊びが人気。

#### コンビナート夜景



産業のまち、四日市は工場夜景の聖地！

#### 四日市あすなろう鉄道



全国で3路線しかない、希少なナローゲージ鉄道が、本市では現役です！

### 文化・イベント

#### 大入道



言わずと知れた本市の顔！

#### 四日市ばんこ焼 陶器まつり



萬古焼をお値打ち価格で購入できます。かつては陶栄町で露店を出して開催されていました。(近年は四日市ドームで開催)

#### 四日市ええモノ語り



本市の特産品や、四日市のものづくりの匠が登場するPR動画を公開中です。ぜひご覧ください。

### 特産品

#### お茶



本市は全国有数の「かぶせ茶」の産地です。

#### 泗水十貨店



本市の特産品を集めた地域ブランド「泗水十貨店」には、市内事業者が手掛ける選りすぐりの商品をラインナップ。四日市の認知度とイメージの向上を目指しています。

### 四日市のシンボル

#### 市章



明治30年8月1日の市制施行と同時に制定しました。四日市の「四」と「日」を組み合わせて図案化しています。

#### 市の木 クスノキ



#### 市の花 サルビア



#### 市の鳥 ユリカモメ



もともとは楠町の鳥でしたが、合併にあわせて四日市市の鳥に選定されました。

#### こにゅうどうくん



市制100周年(1997年)の記念の年に生まれた四日市市マスコットキャラクターです。

## まちの未来への提言

### これからの四日市について、四日市市自治会連合会長にお聞きしました！

楠町との合併を経て、本市は人口30万人を超える都市となりました。現在は、本市から若い人が流出してしまうという課題に対して、JR四日市駅近くに理工系の大学を誘致しようという動きに注目しています。本市で学ぶ人を増やし、将来的にここで就職し暮らしてもらうという流れを作ることは、まちの活性化・にぎわいにつながります。さらにJR四日市駅からの人の流れを作り、旧港を再生して、港に象徴される他都市のようににぎわいを生み出すことにも期待しています。



四日市市自治会連合会長 山路和良さん

また、まちのにぎわいと言えば、それぞれの地域で祭りが果たす役割も大切だと思っています。祭り行事では人と人とのつながりが作られコミュニティの一体感が生まれます。それは災害時などに大きな力を発揮するつながりです。

これからの四日市には元気なまちであってほしいと思っています。さまざまな意見があるとは思いますが、市民・事業者・行政が、「どうすることがまちにとっていいことなのか」を話し合いながら、納得してまちづくりを進めていきたいですね。

### まちづくりを考えるシンポジウム

12月7日に総合会館で、東海エリアをけん引するまちづくりを進めるためにシンポジウムを開催しました。海星高等学校生徒によるまちづくり提案や、市内の高校生・大学生、若手社会人と市長のパネルディスカッションで、「将来、四日市にどんなまちになってほしいか」がそれぞれの視点から語られました。ご意見は、今後のまちづくりに生かされます。



(株)CBCテレビ解説委員兼アナウンサー 大石邦彦さんの基調講演



パネルディスカッション

### 新市誕生20周年記念式典・記念講演

合併20周年を記念する式典を開催します。式典では、四日市の魅力を広く発信する「フォトコンテスト」の表彰や、応募があった作品を使って作成した動画を上映します。

また、俳優・気象予報士の石原良純さんを講師に迎え、「魅力的な街」をテーマに講演をしていただきます。

時 2月7日(金) 17:00から  
所 文化会館第2ホール  
申 1月24日までに、専用フォームから



地域間の交流フェスタ(平成27年)



10周年を記念した楠地区田んぼアート(平成22年度より毎年実施)

平成27年の10周年記念事業では、楠地区の田んぼアートや地域の交流フェスタなどを開催したよん。イベントには、たくさんの人が参加してくれて、地域の絆を深めることができたんだ。



令和6年度の田植え



●この特集についてのお問い合わせ・ご意見は 政策推進課 ☎354-8112 FAX354-3974